

【暮らす】施策の柱27

①予算事業名	障害者総合支援給付事業	予算科目	3-1-3-3			基本構想上の位置づけ 上段:「島づくり目標」 下段:「施策の柱」	共に暮らせる島づくり
②担当部課名	福祉課	事業実施 (予定)年度	H30~H32			基本計画の該当箇所	福祉の充実 施策の柱27-2
③事業内容	障害者自立支援法による総合的な自立支援システムの2本柱の1本。(もう1本は地域生活支援事業) 自立支援給付とは、在宅で訪問によって受けるサービスや、施設への通所・入所を利用するサービス、また自立促進のための就労支援など利用者の状態はニーズに応じて個別に給付されるサービス。 この自立支援給付は、一部を除き利用者に身近な市町村の実施事業とされ、介護給付、訓練等給付、自立支援医療、補装具に分けられる。						
④実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
⑤事業費 【単位:円】		28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	
	財源内訳	(a) 国庫	90,000,000	89,898,000	85,356,000	85,356,000	85,356,000
		(b) 県費	45,000,000	44,949,000	42,678,000	42,678,000	42,678,000
		(c) 地方債等					
		(d) 一般財源	45,000,000	44,949,000	42,678,000	42,678,000	42,678,000
		計(a~d)	180,000,000	179,796,000	170,712,000	170,712,000	170,712,000
特定財源名	(a)または(b)の名称	障害者自立支援事業		(c)の名称			
⑥事業計画	年度	実施する具体的な事業の内容					
	平成30年度	介護給付、訓練等給付、自立支援医療、補装具の給付					
	平成31年度	介護給付、訓練等給付、自立支援医療、補装具の給付					
	平成32年度	介護給付、訓練等給付、自立支援医療、補装具の給付					
⑦成果目標 (指標) 及び進捗状況	成果目標(指標)		基準値 (29年度)	30年度	31年度	32年度	目標値 (37年度)
	必要な人へ福祉サービス支給が行える	目標	(/)	(利用者数)	(利用者数)	(利用者数)	()
		実績	66人				
	必要な人へ補装具支給が行える	目標	(/)	(支給者数)	(支給者数)	(支給者数)	()
		実績	32人				
	事業効果・成果等	補装具の給付決定が年々増加している。 福祉サービスは1/3が住所地特例で島外に住まわれている方。 サービス利用者は低所得者が多い為、市町村の負担が大きい。					
⑧写真及び図面	福祉サービス	H29年度より、島内にGHが設立され、4名が入所された。1人暮らしの目標に向かって、共同生活を楽しんでいる。 居宅介護を利用する事で、最低限の生活が守られる方が増えた。 就労継続支援B型が設立されたことで、障害者の就労に関しての幅が広がった。 利用者と事業社の間に相談支援が入る事で、計画やモニタリングなど、利用者の様子が以前より分かりやすくなり、支援の改善を考えることができる。 福祉サービス希望者は年々増加しているが、サービスを提供する事業社がない為、限られたものしか支援ができない。 特に居宅介護の出来る事業所が1ヶ所、ヘルパーが4名という体系で、島内のヘルパー希望者に対応するには非常に厳しい現状。			今後の取り組み方 事業所同士、行政共に連携を取り、島の障害者サービスに向け取り組む必要がある。 事業所誘致、またはそれに代わるものの取り入れ、ヘルパーの共有など。 補装具の支給決定に関わる調査の徹底。		
	補装具	補装具を使用することで、日常生活の選択肢の幅が広がり、本人の「生きる力」向上にも繋がる。 補装具					